

Co+work 導入の背景

急速に変化する今日の社会を生き抜くためには「自分で判断し行動できる力」「立場や専門が異なる人と協働する力」「新たな価値を創造する力」が必要とされています。明石高専では、一部の教員が実践していた地域貢献を通した学習活動を全学的に展開し、これらの能力を学生が身につけられるような新科目の導入に向け多くの教職員が議論を重ねてきました。そして2016 年、多様性あるチームで学生たち自身が社会的な課題を発見し、その課題解決に向けた計画を立て、協働しながら実践するという一連のカリキュラムが完成しました。

時代を見据えた新しい教育。教員の役割はティーチングではなくコーチング。それぞれに意識変革が求められる Co+work の実践は、受講学生のみならず、明石高専全教職員にとっても大きな挑戦です。

※地域貢献を通した学習活動は、教育手法の一つである「サービラーニング」とも言われています。

2008年度	■ソーシャルマーケットを利用した学生の育成～キャンパスづくりと地域貢献を通したキャリアアップ支援プログラム（文部科学省 学生支援GP事業）／～14年度
2013年度	■地域特性を活かした地域貢献プロジェクトによる教育研究の質の向上ー地域貢献・研究・教育の融合による地域の共創ー（高等専門学校改革推進経費）／～14年度 ■アクティブラーニングセンター設置
2014年度	■「15歳からのイノベティブ・エンジニアの育成～感情に着目したアクティブ・ラーニングによるAbilityとCompetencyの向上」（文部科学省AP事業）／～19年度
2015年度	■新規授業導入検討（K-project）
2016年度	■Co+work開講 ■教員向け『Co+workガイドブック』導入
2017年度	■学生向け『Co+workガイドブック～授業のてびき～』導入
2020年度	■3学年4学科横断型 工学実装教育プログラム（三菱みらい育成財団助成事業／～22年度）
2021年度	■学生向け・教員向けポータルサイト開設 ■スピノフプロジェクト開始
2022年度	■学生向け『Co+work Book』導入

Co+work の特徴

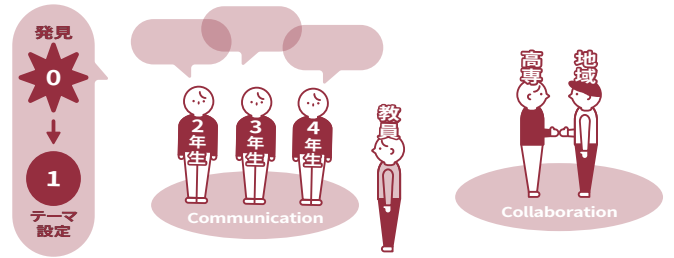
□高専ならではの学年学科混合のチーム編成
高校 2 年～大学 1 年の年齢にあたる 3 学年と 4 学科を混合したチーム編成は、高専の特徴を最大限に生かしたものです。低学年の学生にとって、身近なロールモデルである高学年の学生と関わることは少し先のキャリアを考える機会に、また高学年にとっては自身の成長を振り返る良い機会になっています。

□社会の課題を発見、0 から1を生み出す力
Co+work では「チームにとってのチャレンジ」「社会との関わり（誰かを幸せにする）」「SDGs の目標・ターゲットとの関わり」が求められます。学生主体のチームで課題発見からテーマ設定という 0 から 1 を生み出す経験を通じて、今日の社会で必要とされるイノベティブな能力を養います。

□実践的な学びを支えるルーブリック
教育工学の専門家の助言を得ながら開発した Co+work のルーブリックには将来社会に出た時に身につけておくべき基本的な行動目標が示されています。学生はルーブリックを参考に自身とチームメンバーの行動を振り返って評価し、担当教員はその評価姿勢を評価します。このように Co+work では成果よりもプロセスを重視しています。

□卒業研究につながる主体的な学びの縦軸
Co+work は、入学直後に受講するアクティブラーニング入門や防災リテラシーなどの導入科目に続く 3 年間の必須科目で、ゼミナールや卒業研究へとつながるように授業設計されています。
「Co+work Book」は、授業ガイドとしての役割に加え、3 年間の学びの記録を通じて将来を考えるツールにもなっています。

□全教員が担当、時代に応じた教育能力の養成
Co+work はゼミやプロジェクト等とは異なり、興味関心が異なる学生チームを 1 人の教員が担当します。担任や顧問等とは違う視点で学生を見ることになるため、よりきめ細かな網の目で学生を見守るシステムの構築にも寄与しています。学生に寄り添い、適切な介入を行うにはどうすればよいか。この科目は全教員が当事者であるため、互いに悩みを共有しやすいという特徴もあります。このように Co+work は教員 FD（Faculty Development）の役割も担っています。



Co+work の流れ

① チームビルディング



チームメンバー、担当教員と顔合わせをします。ガイダンスの後に個人目標を設定し、チームビルディングを進めていきます。

② 課題発見・テーマ設定



チームで地域や社会の課題を発見し、1年間の活動テーマを決定します。続いて役割分担、予算、スケジュールなどを検討し、活動計画書を作成します。

③ 活動計画発表・意見交換会



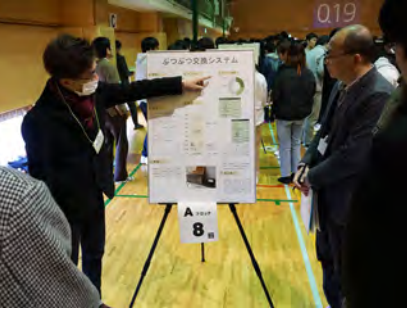
他のチームと合同で活動計画を発表会をします。それぞれのチームの計画内容について意見交換を行います。

④ 計画の見直し・チーム活動



発表会・意見交換会を振り返り、活動計画を見直します。計画が固まったらチーム活動を進めていきます。地域と連携したり、ものを作ったり、様々な活動が展開されます。高専祭で成果を展示するチームもあります。

⑤ 最終報告会・意見交換会

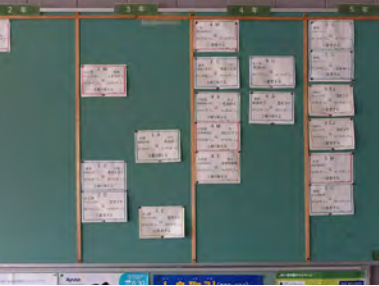


1年間の成果を発表し、教員や学生、外部評価者からのコメントをもらいます。最後に個人目標の達成度などを教員やチームメンバーと振り返ります。

スピノフプロジェクト

引き続き活動テーマに取り組みたい場合は、新たなメンバーを募ってスピノフプロジェクトに申請し、採用されたら課外活動として継続できます。

これまでの活動テーマ例



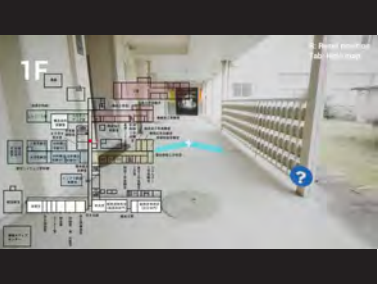
時間割革命
時間割変更掲示板の改善
2018年度9班



企業と一緒にパンを作ろう。
ベアリングパンの開発
2018年度15班



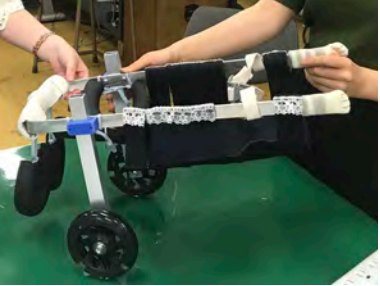
シェアチャリ／Rental bike
自転車シェアシステムの構築
2019年度13A班、30B班



Googleストリートビューで校内案内
校舎の中をGooglemapストリートビューで公開
2019年度43A班



留学先の文化を知ろう
留学・海外研修案内パンフレットの作成
2020年度7班



ワンちゃん猫ちゃんをまもろう！
保護犬保護猫の情報発信と猫用車椅子の製作
2020年度26AB班（スピノフプロジェクト）

ドアから始まるジェンダーレスの世界
SDGs目標5の実現を目指しトイレの扉をリメイク
2021年度2班